

神奈川・南足柄市
古屋富雄さん

農村と都市のあり方 考えてもらおう一助に

CD「ふるさと回帰」発売へ



早咲きの寒桜を見守る古屋さん

神奈川県南足柄市で花木苗などの生産農園を営む古屋富雄さん(63)は地方創生の流れを本物にしようと、CD作品集の自主制作に取り組み。昨年10月には「過疎/遠い思い出」をリリース。近く第2弾が発売の運びだ。有名デュオグループの一員だった人などの協力で、どれもアコースティックギターが音色が心地よい仕上がりに。「農村と都市のあり方を多くの人に考えてもらおう一助になれば」と張り切る。

農山漁村の応援ソングを

♪この道はだんだん狭く
なると町へ行くバスはもう
来ない♪ 第1弾「過疎」
はこの後「取り残された悲
しさは空の青さに似ている
よ」とモノローグ、「帰っ
てきてくれよこの村に あ
か」と思い立った。農水省
の娘もあいつももういな
い」と歌い上げる。

同曲は古屋さんが学生時
代、地方で見た風景をもと
に作詞作曲したフォークソ
ング。当時はフォークブー
ムで、ギターを手に学園祭

フルート奏者で編曲者の
雨宮悦子さんが農園を訪れ
たのが縁で「ケンとメリー
く愛と風のように」のヒッ
トで知られる2人組、B
UZZ(バズ)の一員だっ
た東郷昌和さんを紹介され
た。東郷さんが歌い、アコ
ースティックギター奏者の
平野融さんも加わってCD
化が実現した。

同CDは同じく古屋さん
作の「遠い思い出」とカッ
プリングされて昨年10月に
ネット通販で発売(税込み
1200円)。50〜70代の
圧倒的な支持を受け、今も
品切れ状態だ。



自然・食・農への思い込め

第2弾として制作中なの
が「過疎」の続編に当たる
「ふるさと回帰/村に戻
る」。「ふるさと回帰」は
高度経済成長期に離農する
ことなく過疎の村にとどま
った少年が結婚。40年後の

今の心境を歌った。
「町に憧れ、よりよい暮
らしを求めることが本当の
幸せだったのか。その一方
で農に憧れ、村に若者がや
ってくる現状をどう考えた
らいいのかを問いかけまし
た」と古屋さん。「村に戻
って」は少年と少女の淡い
別れとその後、大人になっ
た二人が再び村に戻り一緒
に暮らす物語だ。

ふるさと回帰
～過疎のアンサーソング～

みんな町へ行ってしまいました
あれから40年が経ちました
私は妻と村に留まっています
農ある暮らしを続けています

町の暮らしはどうですか
楽しい日々は続いていますか
私は今日も畑に出ています
明日の糧を作っています

アー ふるさと回帰
優しい母の胸に戻れよ

アー ふるさと回帰
先祖の墓に花をたむけよ



ディーには自然や食・農に
対する自らの思いも込めた
という。

同CDは7月にも発売に
なるが、古屋さんはさらに
第3弾「あなたも田舎で暮
らすなら/村社会・結の心
」を準備中で、6曲セットの
作品集にする計画だ。

古屋さんは元南足柄市職
員。農業委員会事務局長時
代には市独自の市民農業者
制度創設を主導した。定年
後は2秒の農地で花木品種
の育生や高付加価値農産物
の生産・直売を手がけ、新
規就農者支援にも取り組
む。著書に「兼業サラリー
マンの力―農業の新しい
時代が始まる」(栄光出版
社)があり、地域活性化で

「自然な表現にあふ
れています」と評価。メロ
講演に歩くことも多い。